

## [Kaffeeklatsch] 8

2025 ひろしまフラワーフェスティバルに  
“ぐだぐだ感溢れるかふえ〜”を

広島修道大学教授 中根 光 敏

どうせやるなら何でも真剣にやらないと楽しくない——遊びなら尚のこと。

「今が一番若いって分かってる?」「着たい服はすぐ着ないと!!」……メイド服を買おうかどうか迷ってグズグズしている同僚を誑かし、揃いのオリジナル前掛けを纏って「Café Sociology: ぐだぐだ現代社会診断」と称したイベントをゴールデンウィーク一日限定で行った。

一昨年からCafé Sociologyと称して大学キャンパス内で珈琲と抹茶を提供するイベントを二回ほど実施した経緯から、フラワーフェスティバルにおいて平和大通りに面した大学のブースでカフェをすることとなった。「公共性と平等」というそれっぽいイメージをコーヒー（ハウス）と抹茶（茶道）



2025年5月3日

に無理矢理重ねて、社会学科のスタッフと「慌ただしい現代社会の中で、お茶でもしながら、グダグダお話ししましょう」という企画に仕立て上げた。裏千家助教授許状を有する同僚がレアな抹茶数種類を、私がOwn Roast珈琲11種と非認証ヨシタケコーヒーをネルドリップ抽出で、提供できるように準備した。そして、学生時代に秋葉原のメイドカフェに応募して不採用だった同僚が、アキバで仕入れたメイド服を着用して「ぐだぐだ現代社会診断」を仕切った。

1977年に初開催されたひろしまフラワーフェスティバルは、ゴールデンウィーク中の祭りとして日本最大級らしく、平和大通りには数百もの屋台が出店する。「それほど人は来ないだろう」から集まった学科の教員で「マニアックな抹茶と珈琲をゆっくり楽しめば良い」と高を括って臨んだのが、人が来ようと来まいとするべき準備は変わらない。交通規制前の朝8時にクルマで機材を運び込もうとしたのだが、密集した露店が壁となっていて大学のブースにさえ近づけない。結局、駐車場から台車で三往復して、準備を整え一息吐こうとした途端「カフェできますか」と大学スタッフから声がかかった。カフェ目当ての来場者がもう来ている。それから18時頃まで、ほとんどぶっ通しで珈琲・抹茶部門は稼働することになり、「ぐだぐだ現代社会診断」も人が途切れなかった。

ただ、宣伝もしていないのに、大学関係者以外の多くの人たちがどうして訪れてくれたのか疑問だったのだが、フェスティバル初日5月3日は「約67万7千人が来場した」と発表されて納得……。ひたすら珈琲を淹れて真剣に遊んだ一日は、私にとって頗る楽しい経験となった。